

trivia ■ 皮膚科のトリビア ■ 148

本欄は、浅井皮膚科クリニックのホームページに連載されている「皮膚科のトリビア」を紹介させていただくものです。学会・研究会などで聞きしたことをその都度まとめ、連載されています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

抗甲状腺薬(PTU)によるMPO-ANCA産生機序

第46回皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会から(平成28年11月5日)

抗甲状腺薬であるプロピルチオウラシル(PTU)内服中に、ANCA関連血管炎を発症することがある。ANCA関連血管炎の発症に関与する好中球細胞外トラップ(NTEs)は、好中球の核が脱凝集したクロマチンで構成され、MPOをはじめとする酵素を内包しているが、PTUがあるとNETsがDNAase1で分解されにくく、異常な状態として残り、そのためにMPO-ANCAが形成されやすくなる。

「PTUが関与しないANCA関連血管炎も、PTUと同様の作用を持つ何かが、発症の引き金になるということらしい。なお、NETs形成はpeptidylarginine deiminase 4(PAD4)阻害剤であるCl-amidineにより有意に抑制されるところ」。

トイレットペーパーの顔料による接触皮膚炎症候群

第46回皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会から(平成28年11月5日)

50歳代の女性、半年前から続く臀裂部の湿疹で来院。ステロイド軟膏外用で軽快せず、全身に湿疹が拡大した。日用品、外用薬、衣類などのパッチテストを施行したところ、使用していた再生紙製白色トイレットペー

パーas isで陽性を示した。成分分析でズダンI分解物質と類似構造を持つ顔料が検出された。パッチテストでズダンIが陽性。口紅による接触皮膚炎の既往があった。

「再生する前の古紙に顔料が含まれていれば、それを用いた再生紙には色がたとえ白であっても顔料が残存していることがあるとのこと。口紅などの色素の接触皮膚炎の既往歴がある患者には再生紙を使わないよう指導が必要だ」。

EGFR阻害薬は毛包内に排泄され皮脂産生を増強する

第46回皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会から(平成28年11月5日)

EGF受容体チロシナーゼ阻害薬(ゲフィチニブ、エルロチニブ)は副作用として痤瘡様発疹をきたすことがある。同薬を服用中の患者から採取し毛包内容物中の薬剤を解析したところ、いずれも未代謝物として検出された。また、培養脂腺細胞においてゲフィチニブは皮脂産生を増強した。

「これはきれいなデータで、まさに病因が解明されたわけだが、すべての患者で痤瘡様発疹が出るわけではないというところが、難しいところだ」。

トリビア (trivia) = 3を意味するtriと十道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにもある場所」, そこから転じて「瑣末なこと」となり, 今では雑学的知識, 豆知識, などを意味する言葉として定着している。

浅井俊弥

Asai, Toshiya

浅井皮膚科クリニック

(〒240-0013 横浜市保土ヶ谷区帷子町1-14)

ホームページアドレス:

<http://www.asai-hifuka.com>

アピキサバン(エリキュース)による円形脱毛症

第46回皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会から(平成28年11月5日)

70歳代の女性。円形脱毛症の既往あり。心房細動に対してエリキュースの内服を開始。1週間後から脱毛が生じ、その後急速に進行。病理組織学的に毛包の萎縮と毛根鞘周囲にリンパ球浸潤があった。DLSTはS.I. 182%。円形脱毛症はエリキュースの添付文書にも副作用として記載されている。

「ワルファリンによる脱毛症も少なくないらしい。抗凝固薬の副作用として生じているかは、一応考えておかないといけない」。

10%と8.5%だった。副作用は鼻咽頭炎が主体で重大なものはなかった。

「有効性は理解できたが、今後はどういった条件を満たすアトピー性皮膚炎患者に適応するかをしっかり示してほしい。慢性の皮膚疾患の治療がどんどん変わってきて、最近、自分は旧世代の皮膚科医だと感じるようになった」。

痒みの原因は夜のスマホかも

第46回皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会から(平成28年11月6日)

メラトニンは松果体から分泌される睡眠に関連するホルモンで、夜間に分泌され、毛細血管の拡張作用で体温を下げる働きがある。またメラトニンは光センサーとしての働きがあり、夜間の光はメラトニンの分泌を抑制する。そのため体温が下がらず、痒みが持続する可能性がある。

「学童や成人のアトピー性皮膚炎患者が、夜ふかしや睡眠不足で悪化することはあると思うが、起きている時間が長いだけではないかもしれない」。

dupilumabによるアトピー性皮膚炎の治療

第46回皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会から(平成28年11月6日)

IL-4 receptor α (IL-4R α) のヒト型モノクローナル抗体であるdupilumabは、Th2のkey cytokaineであるIL-4とIL-13のシグナルをブロックすることで、アトピー性皮膚炎、喘息、副鼻腔炎の症状を改善する。2本の第3相プラセボ対照試験(SOLO1試験およびSOLO2試験)で、①300 mg毎週投与群ではそれぞれ37%と36%の患者が、②300 mg隔週投与群においてそれぞれ38%と36%の患者が皮膚病変なし(IGA 0) またはほぼなし(IGA 1)を達成。プラセボ群では、それぞれ

